

< 審査意見書 >

町民のこころ豊かな暮らしを実現するため、「寒川町総合計画^{にせんよんじゅう}2040 第2次実施計画及び第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」)に基づく取り組みの推進」、「将来を見据えたまちづくりへの取り組み」、「持続可能な行財政運営の取り組み」という3つの予算編成基本方針を掲げ編成され、今回審査に当たった当町の令和8年度一般会計予算及び4特別会計予算の総額は、過去最大の325億3,056万1千円、対前年度比7億4,213万9千円、2.3%の増であり、また、一般会計予算の総額は、197億2,000万円、対前年度比8,000万円、0.4%の増となっています。

まず歳入では、一般会計総額の48.2%を占める町税において、個人町民税では納税義務者数の増や個人所得の増加傾向を踏まえて、町税全体で95億510万円、対前年度比3億1,140万円、3.4%の増。

国庫支出金のうち国庫負担金では、公定価格の増により、子どものための教育・保育給付費国庫負担金が1億895万円、18.2%の増となるなど、国庫負担金全体で9,445万円、3.9%の増。また国庫補助金では、(仮称)寒川町ストリートスポーツパーク及び(仮称)相模川一之宮公園の整備に伴い、地域未来交付金が3億3,938万円の増となるなど、国庫補助金全体で3,347万円、5.6%の増となっています。

県支出金のうち県負担金では、国庫負担金と同様に、公定価格の増に

よる、子どものための教育・保育給付費県費負担金の増などにより、県負担金全体で7,615万円、7.8%の増。また県補助金は、国の施策として学校給食費の抜本的な負担軽減を図るための交付金が新設されたことにより、給食費負担軽減交付金が1億4,065万円の増となるなど、県補助金全体で1億8,592万円、60.4%の増となっています。

町債は、(仮称)寒川町ストリートスポーツパーク及び(仮称)相模川一之宮公園の整備に伴う、スポーツ施設活性化事業債や、寒川駅南口タクシー乗降場などの整備に伴う、寒川駅南口整備事業債の増などがあるものの、茅ヶ崎市消防署宮山出張所建設工事の完了により、公共施設再編計画実施事業債(消防債)や、茅ヶ崎市環境事業センター広域粗大ごみ処理施設建設工事の完了により、ごみ・資源物収集処理事業債などが減となるなど、町債全体で7億8,260万円、52.3%の減となりました。

さらには、将来にわたり持続可能な行財政運営を行うため、効率的な執行という観点から事業見直しや民間活力の活用などを検討するとともに、デジタル化による省力化・少人化などの取り組みを推進するほか、創意工夫と多角的な視点で歳入予算の確保を行うということからも、歳入の太宗をなす一般財源を中心とした、確実かつ計画的な財政運営が図られているものと判断しました。

次に歳出ですが、総務費では、公共施設再編を検討するための、公共施設複合化ワーキンググループ・町民ワークショップの実施。

民生費では、ヤングケアラーコーディネーターの配置や、待機児童解消に向けたサマースクール実証実験の実施。

農林水産業費では、農業の担い手活性化事業補助金や、遊休農地解消補助金の新設。商工費においては、事業資金の利用増により中小企業融資貸付金預託金および中小企業信用保証料補助金の増。

土木費では、(仮称)寒川町ストリートスポーツパーク及び(仮称)相模川一之宮公園の整備に伴う、施設整備関係工事や、北部地域のまちづくり検討に伴う、都市空間の3Dモデル化のための、都市空間情報デジタル基盤構築業務委託の実施。

教育費では、給食センター運営管理経費の食糧費を増とするなど、選択と集中の考えのもと未来に向けたまちづくりや、町民ニーズを踏まえた取り組みが進められていることは、大いに評価できるものです。

特に令和8年度は、寒川駅南口利用者の利便性向上のため、町道岡田一之宮15号線においてタクシーおよび一般車の乗降場の整備を行うこと。さらに、相模川と目久尻川に挟まれ、さがみグリーンライン自転車道に隣接している一之宮地内に、民間活力を活用する手法で多くの方が集い、楽しみ、憩える公園を整備していくことには大きな期待を持つとともに、議会としてもしっかりと見極めていきたいと考えます。

最後に、予算執行にあたっては、審査の過程で指摘された委員の意見等を十分に配慮し、総合戦略に基づく取り組みとして、町の認知度向上

や関係人口の獲得を目指す事業を着実に推進するとともに、町民生活に直結する重要な事業については、積極的かつ効果的に進めると共に、持続可能なまちづくりを着実に推進いただくことを要望し、審査意見とします。